

ふじのくに地球環境史ミュージアムでは、展示や教育プログラムの実施だけでなく、高い専門知識を有する研究員による、世界レベルの調査研究活動を行います。このコーナーでは、インタビューを通じて研究員の仕事や、その素顔を紹介していきます。



ものを知り、真の意味を知る。

Q.専門分野の「環境史」とはどんな学問ですか？

A.環境史とは、ヒトと地球上の生態環境との歴史的な関わりを明らかにする研究分野です。環境史研究には、様々なアプローチがありますが、私は、年縞(『ねんこう』。湖の底に溜まった土砂などの堆積物が長い期間を経て地層のようにしま



一目測に堆積した約3万年前の年縞

模様となったもの)を使って、人間活動に影響を与えた気候変動や自然災害の記録を精緻に復元する研究を行っています。

Q.8月は調査研究のためコロンビアに出張していましたが、どのような内容の研究だったのですか？

A.コロンビアの首都ボゴタ北部のグアタビータ湖で、年縞を採取してきました。この湖は、黄金郷伝説のきっかけとなる、かつてコロンビアで発展したムイスカ文明の聖地とされていました。今後、採取した年縞の分析によって、ムイスカ文明の興亡に影響を与えた自然環境について明らかにする予定です。

Q.山田准教授は、現在製作が進む常設展示の企画を進めていますが、展示の見所を教えてください。

A.常設展示は、“思考を拓く”をコンセプトとして製作を進めています。教室を改修して作った10室の展示室を通じて、静岡の多様な自然環境の成り立ちや、今現在地球規模で忍び寄り環境リスクを知った上で、未来の人類が切り拓いていく豊かな世界を想像していただきます。一ものを知り、真の意味を知る—ふじのくに地球環境史ミュージアムでは、自ら考えることで起きる驚きと、新たな発見の喜びを感じていただきたいと思っています。

年縞から地球環境と人類の歴史を紐解く山田准教授の性格を一言で言うと、「ロマンチスト」。そんな山田准教授をはじめとした研究員たちが創る常設展示を、どうぞ御期待ください！

— 次回は、“昆虫博士”の岸本准教授です。

准教授

やまだ かずよし
山田和芳

1974年愛知県生まれ。東京都立大(現首都大学東京)大学院で博士課程を修了した後、島根大学や京都の国際日本文化研究センター、フィンランドトゥルク大などで研究。専門は自然地理学。年縞を詳しく分析して環境の変化や人間の営みを明らかにする。

お知らせ

◎ミュージアムボランティア(仮称)100名、まもなく募集開始!

ふじのくに地球環境史ミュージアムでは、開館にあたり研究員や職員とともに県立博物館を創っていくミュージアムボランティア(仮称)を募集します。活動内容などの詳しい情報は、今後配布する応募要項をお待ちください。

◎静岡県立中央図書館にてミニ博物館「静岡県の哺乳類」開催!

10/1(木)~10/28(月)、30万点を超えるふじのくに地球環境史ミュージアムの収蔵品の中から、一部を紹介するミニ博物館を静岡県立中央図書館で開催します。今回のテーマは「静岡県の哺乳類」。10/11(日)にはフロアレクチャーも行いますので、是非ご参加ください。ミニ博物館、フロアレクチャー共に、料金は無料です。お問合せ:静岡県立中央図書館企画振興課(TEL054-262-1246)

ふじのくに地球環境史ミュージアム NEWS LETTER

発行:ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課
住所:〒422-8017 静岡県静岡市駿河区大谷5762(旧静岡南高校跡地) ※現在工事中のため、見学不可とさせていただきます。御了承ください。



[TEL] 054-260-7111 [E-mail] museum-kikaku@pref.shizuoka.lg.jp
[FAX] 054-238-5870 [ホームページ] http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/bk-160/museum.html

https://twitter.com/fujinokuni_NEM

https://www.facebook.com/fujinokuninaturemuseum

百年後の静岡が豊かであるために

NEWS LETTER



ふじのくに地球環境史ミュージアム ニュースレター

□ 創刊にあたって □ イントロダクション □ ミュージアムダイアリー □ 研究者リレーインタビュー

[vol.001]



ミュージアムキャラバン「化石の世界」

Photo:Nacása & Partners

創刊号

FIRST ISSUE

創刊にあたって

2016年3月末、静岡県に地球環境史をテーマとした県立博物館が誕生します。

“ふじのくに”静岡県は、日本列島に結節する3つのプレートの接点に位置し、最深部で2,500mに達する駿河湾と3,000mを超える富士山、南アルプスなどの急峻な山岳地帯、幅広い気候帯に豊かな自然が広がり、多様な動植物や希少な種が息息・生育しています。私たちは、この郷土固有の自然環境を、学び、親しみ、守り、育て、そして次世代に継承していかなければなりません。

一方で世界に目を向ければ、人類の文明が地球環境に与えた影響が現代の様々な環境問題を引き起こし、多くの生物種の絶滅を招いており、このままでは人類の未来さえ危ういとも言われております。

そこで静岡県は、有度山南麓に位置し駿河湾を一望する旧静岡南高校の校舎を改修し、全国初の地球環境史をテーマとした博物館を整備することを決めました。ふじのくに地球環境史ミュージアムは、人と地球上の生態環境との関わりを歴史的に調査研究することで、過去から現在を見通し、人と自然が共生する未来のあり方を考える「知の拠点」を目指していきます。

現在ミュージアムでは、来年3月の一般公開に向けて様々な準備を進めているところです。NEWS LETTERでは、日々変化していく“ミュージアムのいま”をお知らせしていきます。